

令和 7 年 8 月 26 日 総合教育会議

小学校・中学校の適正規模等の進め方について

小中学校の適正規模及び適正配置 に向けた検討について

「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」において、最優先に検討していくこととした中学校区の学校について、考え方を示します。

目 次

ページ

I 坂下中学校区	1
II 藤山台中学校区	7
III 高森台中学校区	13
IV 石尾台中学校区	19
V 岩成台中学校区	25

<参考>

1 学校規模の区分

過小規模	全学年でクラス替えができない規模
小規模	クラス替えができない学年がある規模
やや小規模	(中学校のみの区分) 小規模だが、全学年でクラス替えができる規模

(1) 小学校における学校規模の区分

学級数	～ 6	7 ～ 11	12 ～ 24	25 ～ 30	31 ～
区 分	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模

(2) 中学校における学校規模の区分

学級数	～ 3	4 ～ 5	6 ～ 11	12 ～ 24	25 ～ 30	31 ～
区 分	過小規模	小規模	やや 小規模	適正規模	大規模	過大規模

(3) 対応の考え方

過小規模	過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討します。
小規模	
やや小規模 (中学校のみ)	その推移を見守ることとし、必要に応じて通学区域の変更などを検討します。

2 学級数の基準

学級数については、現行の1学級あたりの児童生徒数の基準で推計しています。

学 年	人 数
小学1年生～中学1年生	35 人
中学2年生及び中学3年生	40 人

I 坂下中学校区（坂下中、坂下小、西尾小、神屋小）

1 児童生徒数推計

令和 22 年度では、坂下小学校及び神屋小学校は全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であり、西尾小学校においては複数の学年を 1 つの学級に編成することが推定されます。

(1) 坂下中学校 ※R11 に一時的に「適正規模」になり、R12 から「やや小規模」で推移

学 年	R 7（やや小）		R13（やや小）		R19（やや小）		R22（やや小）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	127	4	94	3	52	2	48	2
2 年	107	3	101	3	55	2	41	2
3 年	114	3	111	3	77	2	43	2
合 計	348	10	306	9	184	6	132	6

(2) 坂下小学校 ※R12 から「小規模」になり、R22 では「過小規模」とであると推定

学 年	R 7（適正）		R13（小）		R22（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	68	2	32	1	32	1
2 年	60	2	31	1	28	1
3 年	69	2	53	2	32	1
4 年	76	3	43	2	35	1
5 年	83	3	47	2	32	1
6 年	66	2	53	2	25	1
合 計	422	14	259	10	184	6

(3) 西尾小学校 ※R 9 から複数の学年を 1 つの学級に編成することになると推定

学 年	R 7（過小）		R13（過小）		R22（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	3	1	1	1	2	1
2 年	9	1	5		5	
3 年	9	1	6	1	5	1
4 年	13	1	7		6	
5 年	15	1	9	1	6	1
6 年	8	1	7	1	4	
合 計	57	6	35	4	28	3

(4) 神屋小学校 ※R10 から「過小規模」になると推定

学 年	R 7（小）		R13（過小）		R22（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	19	1	19	1	12	1
2 年	25	1	19	1	12	1
3 年	23	1	18	1	16	1
4 年	36	2	31	1	13	1
5 年	23	1	29	1	18	1
6 年	29	1	27	1	15	1
合 計	155	7	143	6	86	6

※ R19 までは、R7 の 0 歳から 5 歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22 は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

2 アンケート結果

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】

児童アンケート…【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

- ・ 小学校回答者数…1,014 人（保護者 521 人、児童（3～6 年生）391 人、地域の方 102 人）
- ・ 中学校回答者数… 458 人（保護者 158 人、生徒 300 人）

(1) 学校の適正規模等に取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約 6 割、地域の方で約 8 割、中学校の保護者で約 7 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成

「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」 と回答した方 … 反対

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	61.8%	28.8%	9.4%
	【地域】	78.4%	11.8%	9.8%
坂下小	【保護者】	63.6%	30.5%	5.9%
	【地域】	80.4%	10.9%	8.7%
西尾小	【保護者】	42.8%	32.7%	24.5%
	【地域】	50.0%	22.2%	27.8%
神屋小	【保護者】	64.2%	23.8%	12.0%
	【地域】	89.5%	7.9%	2.6%

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
坂下中	【保護者】	69.6%	26.0%	4.4%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	90.3%	9.4%	0.3%
	【地域】	98.8%	1.2%	0 %
坂下小	【保護者】	87.7%	12.3%	0 %
	【地域】	97.3%	2.7%	0 %
西尾小	【保護者】	100%	0 %	0 %
	【地域】	100%	0 %	0 %
神屋小	【保護者】	93.8%	5.2%	1.0%
	【地域】	100%	0 %	0 %

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
坂下中	【保護者】	90.9%	8.2%	0.9%

(2) 複数学級を望む声について

1 学年に複数学級が望ましいと考えている方はとても多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると思っています。

【小学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **96.4%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **60.7%**

【小学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている児童 **82.6%**

【中学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **99.3%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **57.6%**

【中学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている生徒 **99.0%**

(3) 学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、クラス替えができて友達がたくさんできることや、体育大会などの行事でクラスに活気があることが大事だと考えています。

地域の方は、多くの子どもたちによる人間関係の広がりや、子どもたちの登下校について重要と考えています。

【小学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「クラスがかわって、新しい友だちがたくさんできること」 **43.7%**
- ・「運動会などが楽しくて、クラスが元気なこと」 **39.4%**

【中学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 **59.3%**
- ・「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」 **51.0%**

【地域】

Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

- ・「多くの子どもたちがいて人間関係に広がりがあること」 **59.8%**
- ・「子どもたちの通学の距離や方法」 **58.8%**

(4) 魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子どもの人間関係の広がりや、子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育を重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

【小学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 **58.0%**
- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 **54.9%**

【中学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 **56.3%**
- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 **53.8%**

【地域】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

- ・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」 **84.3%**
- ・「学校と地域との連携が図られること」 **38.2%**

(5) 学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関することを心配と考えています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

【小学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **51.8%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **22.7%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **62.2%**
- ・「登下校にかかる時間」 **21.5%**

【中学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **55.0%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **24.7%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **52.5%**
- ・「登下校にかかる時間」 **24.1%**

3 適正規模及び適正配置に向けた考え方

「児童生徒数推計」と「アンケート結果」を踏まえるとともに、「地域の特性」もあわせ、坂下中学校区の適正規模及び適正配置に向けた考え方を示します。

児童生徒数推計

- (1) 坂下中学校は、基本的に「やや小規模」で推移すると推定されます。
- (2) 令和 22 年度では、坂下小学校及び神屋小学校は全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であり、西尾小学校においては複数の学年を 1 つの学級に編成することが推定されます。

アンケート結果

- (1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級が望ましいと考えられています。
- (2) 保護者は子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒はクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。
- (3) 学校の規模や配置を見直す場合、登下校に関することを多くの方が心配しています。

地域の特性

- (1) 隣接する中学校区と地形的な隔たりがあります。
- (2) 春日井市に合併前の旧坂下町地区として、地域のつながりがあります。



**坂下中学校区の小中学校が
適正な規模や配置となるように検討を進めます。**

＜検討にあたって＞

- (1) 坂下中学校については、基本的に「やや小規模」で推移すると推定されることから、その推移を見守ることとします。
- (2) 小学校については、地域の特性から、坂下中学校区の中のみで適正規模等の検討を進めていきます。
- (3) 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用などの通学手段についても検討する必要があります。

Ⅱ 藤山台中学校区（藤山台中、藤山台小）

1 児童生徒数推計

令和 22 年度では、藤山台中学校、藤山台小学校ともに、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であると推定されます。

(1) 藤山台中学校 ※R15 から「小規模」、R16 から「過小規模」になると推定

学 年	R 7（やや小）		R 13（やや小）		R 19（過小）		R 22（過小）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	60	2	42	2	27	1	23	1
2 年	55	2	55	2	28	1	21	1
3 年	75	2	41	2	27	1	29	1
合 計	190	6	138	6	82	3	73	3

(2) 藤山台小学校 ※R11 から「小規模」になり、R22 では「過小規模」であると推定

学 年	R 7（適正）		R 13（小）		R 22（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	42	2	31	1	19	1
2 年	58	2	34	1	26	1
3 年	43	2	33	1	20	1
4 年	50	2	36	2	23	1
5 年	55	2	38	2	21	1
6 年	69	2	37	2	27	1
合 計	317	12	209	9	136	6

※ R19 までは、R7 の 0 歳から 5 歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22 は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

2 アンケート結果

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】

児童アンケート …【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

- ・ 小学校回答者数… 398 人（保護者 180 人、児童（3～6 年生）172 人、地域の方 46 人）
- ・ 中学校回答者数… 266 人（保護者 102 人、生徒 164 人）

(1) 学校の適正規模等に取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校の保護者で約 7 割、地域の方で約 9 割、中学校の保護者で約 8 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成

「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」 と回答した方 … 反対

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
藤山台小	【保護者】	66.6%	26.7%	6.7%
	【地域】	86.9%	13.1%	0 %

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
藤山台中	【保護者】	77.5%	19.6%	2.9%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
藤山台小	【保護者】	91.7%	7.5%	0.8%
	【地域】	100%	0 %	0 %

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
藤山台中	【保護者】	94.9%	3.8%	1.3%

(2) 複数学級を望む声について

1 学年に複数学級が望ましいと考えている方はとても多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えています。

【小学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **98.3%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **65.0%**

【小学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている児童 **95.9%**

【中学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **100%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **66.7%**

【中学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている生徒 **98.2%**

(3) 学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、クラス替えができて友達がたくさんできることや、体育大会などの行事でクラスに活気があることが大事だと考えています。

地域の方は、子どもたちの登下校や、多くの子どもたちによる人間関係の広がりを重要と考えています。

【小学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「クラスがかわって、新しい友だちがたくさんできること」 50.6%
- ・「みんなで相談しながらいっしょに勉強ができること」 42.4%

【中学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 56.7%
- ・「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」 40.9%

【地域】

Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

- ・「子どもたちの通学の距離や方法」 58.7%
- ・「多くの子どもたちがいて人間関係に広がりがあること」 56.5%

(4) 魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子どもの人間関係の広がりを重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

【小学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 60.0%
- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 53.3%

【中学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 64.7%
- ・「幅広い部活動やクラブ活動が存在し、活発に活動していること」 52.9%

【地域】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

- ・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」 87.0%
- ・「学校と地域との連携が図られること」 30.4%

(5) 学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関することを心配と考えています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

【小学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **55.5%**
- ・「環境変化による子どもへの影響」 **22.2%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **58.9%**
- ・「登下校にかかる時間」 **29.4%**

【中学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **53.9%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **24.5%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **42.2%**
- ・「登下校にかかる時間」 **41.1%**

3 適正規模及び適正配置に向けた考え方

「児童生徒数推計」と「アンケート結果」を踏まえるとともに、「地域の特性」もあわせ、藤山台中学校区の適正規模及び適正配置に向けた考え方を示します。

児童生徒数推計

- (1) 令和 22 年度では、藤山台中学校、藤山台小学校ともに、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であり、小中学校の 9 年間でクラス替えのない環境になると推定されます。

アンケート結果

- (1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級が望ましいと考えられています。
- (2) 保護者は子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒はクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。
- (3) 学校の規模や配置を見直す場合、登下校に関することを多くの方が心配しています。

地域の特性

- (1) ニュータウン地区内で、藤山台中学校区は岩成台中学校区、高森台中学校区と接しており、藤山台小学校は、直線距離で、岩成台中学校から約 0.9 km、高森台中学校から約 1.5 km の距離に位置しています。
- (2) 平成 25 年 4 月に藤山台小学校と藤山台東小学校を統合し、平成 28 年 4 月に西藤山台小学校を統合しました。現在、藤山台小学校は、中学校区内の唯一の小学校です。



**藤山台中学校区の小中学校が
適正な規模や配置となるように検討を進めます。**

＜検討にあたって＞

- (1) 藤山台中学校区は、「過小規模」となる小学校、中学校が 1 校ずつであり、それぞれ単独で適正規模の課題を解決することが困難であることから、藤山台中学校区と隣接する中学校区とあわせて検討する必要があります。
- (2) 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用などの通学手段についても検討する必要があります。

Ⅲ 高森台中学校区（高森台中、高森台小、中央台小、東高森台小）

1 児童生徒数推計

令和22年度では、高森台中学校はクラス替えのできない学年がある「小規模」であり、中学校区内の全ての小学校は全学年で学級数が1学級の「過小規模」とであると推定されます。

(1) 高森台中学校 ※R19まで「やや小規模」で推移、R22では「小規模」とであると推定

学 年	R 7（やや小）		R 13（やや小）		R 19（やや小）		R 22（小）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	99	3	74	3	47	2	38	2
2 年	92	3	85	3	54	2	35	1
3 年	94	3	92	3	47	2	36	1
合 計	285	9	251	9	148	6	109	4

(2) 高森台小学校 ※R13まで「小規模」で推移、R22では「過小規模」とであると推定

学 年	R 7（小）		R 13（小）		R 22（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	34	1	32	1	16	1
2 年	36	2	41	2	16	1
3 年	41	2	27	1	19	1
4 年	38	2	39	2	17	1
5 年	39	2	32	1	15	1
6 年	34	1	32	1	13	1
合 計	222	10	203	8	96	6

(3) 中央台小学校 ※「過小規模」で推移

学 年	R 7（過小）		R 13（過小）		R 22（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	21	1	11	1	10	1
2 年	27	1	12	1	12	1
3 年	29	1	20	1	13	1
4 年	22	1	13	1	10	1
5 年	33	1	16	1	13	1
6 年	21	1	23	1	8	1
合 計	153	6	95	6	66	6

(4) 東高森台小学校 ※「過小規模」で推移

学 年	R 7（過小）		R 13（過小）		R 22（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	18	1	16	1	9	1
2 年	22	1	19	1	10	1
3 年	21	1	12	1	10	1
4 年	23	1	17	1	11	1
5 年	20	1	20	1	8	1
6 年	18	1	16	1	7	1
合 計	122	6	100	6	55	6

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

2 アンケート結果

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】

児童アンケート…【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

- ・ 小学校回答者数… 802 人（保護者 397 人、児童（3～6 年生）311 人、地域の方 94 人）
- ・ 中学校回答者数… 363 人（保護者 133 人、生徒 230 人）

(1) 学校の適正規模等に取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約 5 割、地域の方で約 7 割、中学校の保護者で約 5 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成

「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」 と回答した方 … 反対

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	51.6%	32.0%	16.4%
	【地域】	73.4%	13.8%	12.8%
高森台小	【保護者】	55.7%	31.1%	13.2%
	【地域】	68.9%	20.7%	10.4%
中央台小	【保護者】	56.2%	33.9%	9.9%
	【地域】	75.7%	13.5%	10.8%
東高森台小	【保護者】	40.4%	31.2%	28.4%
	【地域】	75.0%	7.1%	17.9%

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
高森台中	【保護者】	54.9%	36.1%	9.0%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	92.2%	6.8%	1.0%
	【地域】	97.1%	1.5%	1.4%
高森台小	【保護者】	91.4%	7.5%	1.1%
	【地域】	90.0%	5.0%	5.0%
中央台小	【保護者】	91.2%	7.3%	1.5%
	【地域】	100%	0 %	0 %
東高森台小	【保護者】	95.5%	4.5%	0 %
	【地域】	100%	0 %	0 %

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
高森台中	【保護者】	83.6%	16.4%	0 %

(2) 複数学級を望む声について

1 学年に複数学級が望ましいと考えている方はとても多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると思っています。

【小学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **90.9%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **69.0%**

【小学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている児童 **56.9%**

【中学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **100%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **60.2%**

【中学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている生徒 **97.0%**

(3) 学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、体育大会などの行事でクラスに活気があることや、クラス替えができて友達がたくさんできることなどが大事だと考えています。

地域の方は、多くの子どもたちによる人間関係の広がりや、子どもたちの登下校について重要と考えています。

【小学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「みんなで相談しながらいっしょに勉強ができること」 40.2%
- ・「運動会などが楽しくて、クラスが元気なこと」 35.4%

【中学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 56.5%
- ・「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」 46.5%

【地域】

Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

- ・「多くの子どもたちがいて人間関係に広がりがあること」 69.1%
- ・「子どもたちの通学の距離や方法」 54.3%

(4) 魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子どもの人間関係に広がりがあることを重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

【小学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 59.7%
- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 55.7%

【中学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 56.4%
- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 51.9%

【地域】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

- ・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」 78.7%
- ・「学校と地域との連携が図られること」 34.0%
- ・「緊急時の避難場所が行きやすい場所にあること」 34.0%

(5) 学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関することを心配と考えています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

【小学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **52.1%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **25.2%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **62.0%**
- ・「登下校にかかる時間」 **30.2%**

【中学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **51.1%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **25.6%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **49.6%**
- ・「登下校にかかる時間」 **39.1%**

3 適正規模及び適正配置に向けた考え方

「児童生徒数推計」と「アンケート結果」を踏まえるとともに、「地域の特性」もあわせ、高森台中学校区の適正規模及び適正配置に向けた考え方を示します。

児童生徒数推計

- (1) 令和 22 年度では、高森台中学校はクラス替えのできない学年がある「小規模」であり、中学校区内の全ての小学校は全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であると推定されます。

アンケート結果

- (1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級が望ましいと考えられています。
- (2) 保護者は子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は行事でクラスに活気があることやクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。
- (3) 学校の規模や配置を見直す場合、登下校に関することを多くの方が心配しています。

地域の特性

- (1) ニュータウン地区内で、高森台中学校区は石尾台中学校区、藤山台中学校区、岩成台中学校区と接しており、高森台中学校は、直線距離で、石尾台中学校から約 1.1 km、藤山台中学校から約 1.5 km、岩成台中学校から約 2.3 km の距離に位置しています。



**高森台中学校区の小中学校が
適正な規模や配置となるように検討を進めます。**

＜検討にあたって＞

- (1) 次のことから、隣接する中学校区とあわせた検討も視野に入れる必要があります。
 - ① 高森台中学校については、「小規模」になると推定されること。
 - ② 小学校については、各小学校の児童数推計から、児童数の減少が今後も続くと推計されること。
- (2) 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用などの通学手段についても検討する必要があります。

Ⅳ 石尾台中学校区（石尾台中、玉川小、石尾台小、押沢台小）

1 児童生徒数推計

令和 13 年度では、中学校区内の全ての小学校が全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であると推定され、令和 22 年度では児童数がさらに減少すると推計されます。

(1) 石尾台中学校 ※R18 から「小規模」になり、R22 では「やや小規模」とであると推定

学 年	R 7（やや小）		R13（やや小）		R19（小）		R22（やや小）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	110	4	84	3	33	1	42	2
2 年	112	3	76	2	54	2	43	2
3 年	115	3	108	3	38	1	44	2
合 計	337	10	268	8	125	4	129	6

(2) 玉川小学校 ※R 9 から「過小規模」になると推定

学 年	R 7（小）		R13（過小）		R22（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	25	1	11	1	12	1
2 年	25	1	20	1	12	1
3 年	33	1	10	1	15	1
4 年	27	1	19	1	13	1
5 年	46	2	25	1	18	1
6 年	39	2	21	1	15	1
合 計	195	8	106	6	85	6

(3) 石尾台小学校 ※「過小規模」で推移

学 年	R 7（過小）		R13（過小）		R22（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	21	1	9	1	10	1
2 年	24	1	13	1	11	1
3 年	33	1	11	1	15	1
4 年	31	1	23	1	14	1
5 年	21	1	14	1	8	1
6 年	29	1	22	1	11	1
合 計	159	6	92	6	69	6

(4) 押沢台小学校 ※R13 から「過小規模」になると推定

学 年	R 7（小）		R13（過小）		R22（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	36	2	13	1	16	1
2 年	21	1	27	1	10	1
3 年	38	2	17	1	17	1
4 年	35	1	30	1	16	1
5 年	25	1	33	1	10	1
6 年	32	1	30	1	13	1
合 計	187	8	150	6	82	6

※ R19 までは、R7 の 0 歳から 5 歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22 は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

2 アンケート結果

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】

児童アンケート …【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

- ・ 小学校回答者数… 918 人（保護者 417 人、児童（3～6 年生）374 人、地域の方 127 人）
- ・ 中学校回答者数… 494 人（保護者 200 人、生徒 294 人）

(1) 学校の適正規模等に取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約 5 割、地域の方で約 6 割、中学校の保護者で 6 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成

「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」と回答した方 … 反対

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	54.7%	27.1%	18.2%
	【地域】	64.6%	11.0%	24.4%
玉川小	【保護者】	58.1%	26.4%	15.5%
	【地域】	56.8%	10.8%	32.4%
石尾台小	【保護者】	59.1%	26.3%	14.6%
	【地域】	66.0%	14.0%	20.0%
押沢台小	【保護者】	46.2%	28.8%	25.0%
	【地域】	70.0%	7.5%	22.5%

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
石尾台中	【保護者】	60.0%	27.5%	12.5%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	89.5%	8.8%	1.7%
	【地域】	95.2%	2.4%	2.4%
玉川小	【保護者】	90.7%	5.8%	3.5%
	【地域】	100%	0 %	0 %
石尾台小	【保護者】	88.9%	9.9%	1.2%
	【地域】	90.9%	3.1%	6.0%
押沢台小	【保護者】	88.5%	11.5%	0 %
	【地域】	96.4%	3.6%	0 %

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
石尾台中	【保護者】	85.8%	12.5%	1.7%

(2) 複数学級を望む声について

1 学年に複数学級が望ましいと考えている方はとても多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると思っています。

【小学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **90.9%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **72.7%**

【小学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている児童 **60.4%**

【中学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **98.5%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **64.5%**

【中学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている生徒 **96.9%**

(3) 学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、体育大会などの行事でクラスに活気があることや、クラス替えができて友達がたくさんできることなどが大事だと考えています。

地域の方は、子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育や、子どもたちの登下校について重要と考えています。

【小学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「運動会などが楽しくて、クラスが元気なこと」 43.0%
- ・「みんなで相談しながらいっしょに勉強ができること」 42.2%

【中学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 67.0%
- ・「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」 51.7%

【地域】

Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

- ・「子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 59.1%
- ・「子どもたちの通学の距離や方法」 58.3%

(4) 魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子どもの人間関係に広がりがあることを重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

【小学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 60.0%
- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 54.4%

【中学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 50.0%
- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 40.7%

【地域】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

- ・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」 78.7%
- ・「学校と地域との連携が図られること」 40.2%

(5) 学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関することを心配と考えています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

【小学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **59.5%**
- ・「環境変化による子どもへの影響」 **20.1%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **56.4%**
- ・「登下校にかかる時間」 **31.4%**

【中学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **56.0%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **23.0%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **46.5%**
- ・「登下校にかかる時間」 **32.0%**

3 適正規模及び適正配置に向けた考え方

「児童生徒数推計」と「アンケート結果」を踏まえるとともに、「地域の特性」もあわせ、石尾台中学校区の適正規模及び適正配置に向けた考え方を示します。

児童生徒数推計

- (1) 石尾台中学校は、「小規模」又は「やや小規模」で推移すると推定されます。
- (2) 令和 13 年度では、中学校区内の全ての小学校が全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」と推定され、令和 22 年度では児童数がさらに減少すると推計されます。

アンケート結果

- (1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級が望ましいと考えられています。
- (2) 保護者は子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は行事でクラスに活気があることやクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。
- (3) 学校の規模や配置を見直す場合、登下校に関することを多くの方が心配しています。

地域の特性

- (1) ニュータウン地区内で、石尾台中学校区は高森台中学校区と接しており、石尾台中学校は、直線距離で高森台中学校から約 1.1 km の距離に位置しています。
- (2) 中学校区全体の北部から南部にかけて傾斜がある地形で、登下校の手段に配慮する必要があります。



**石尾台中学校区の小中学校が
適正な規模や配置となるように検討を進めます。**

＜検討にあたって＞

- (1) 石尾台中学校については、「小規模」又は「やや小規模」で推移すると推定されることから、その推移を見守ることとします。
- (2) 小学校については、各小学校の児童数推計から、児童数の減少が今後も続くと推計されることから、隣接する中学校区とあわせた検討も視野に入れる必要があります。
- (3) 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用などの通学手段についても検討する必要があります。

V 岩成台中学校区（岩成台中、岩成台小、岩成台西小）

1 児童生徒数推計

令和22年度では、中学校区内の全ての小中学校が、全学年で学級数が1学級の「過小規模」とであると推定されます。

(1) 岩成台中学校 ※R19まで「やや小規模」で推移、R22では「過小規模」とであると推定

学 年	R 7（やや小）		R 13（やや小）		R 19（やや小）		R 22（過小）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	80	3	76	3	37	2	31	1
2 年	75	2	69	2	54	2	29	1
3 年	80	2	90	3	57	2	31	1
合 計	235	7	235	8	148	6	91	3

(2) 岩成台小学校 ※R11から「過小規模」となると推定

学 年	R 7（小）		R 13（過小）		R 22（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	27	1	17	1	11	1
2 年	35	1	26	1	14	1
3 年	38	2	29	1	15	1
4 年	33	1	30	1	13	1
5 年	38	2	31	1	15	1
6 年	30	1	30	1	12	1
合 計	201	8	163	6	80	6

(3) 岩成台西小学校 ※R12から「小規模」になり、R22では「過小規模」とであると推定

学 年	R 7（適正）		R 13（小）		R 22（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	50	2	20	1	20	1
2 年	38	2	28	1	15	1
3 年	51	2	37	2	21	1
4 年	58	2	37	2	23	1
5 年	46	2	42	2	19	1
6 年	52	2	42	2	21	1
合 計	295	12	206	10	119	6

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

2 アンケート結果

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】

児童アンケート…【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

- ・ 小学校回答者数… 754 人（保護者 339 人、児童（3～6 年生）348 人、地域の方 67 人）
- ・ 中学校回答者数… 335 人（保護者 152 人、生徒 183 人）

(1) 学校の適正規模等に取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約 6 割、地域の方で約 7 割、中学校の保護者で約 6 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成

「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」 と回答した方 … 反対

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	58.1%	32.4%	9.5%
	【地域】	71.6%	9.0%	19.4%
岩成台小	【保護者】	60.2%	28.8%	11.0%
	【地域】	73.5%	11.8%	14.7%
岩成台西小	【保護者】	56.3%	35.8%	7.9%
	【地域】	69.7%	6.1%	24.2%

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
岩成台中	【保護者】	61.8%	27.6%	10.6%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	87.8%	9.7%	2.5%
	【地域】	97.9%	2.1%	0 %
岩成台小	【保護者】	90.8%	7.2%	2.0%
	【地域】	96.0%	4.0%	0 %
岩成台西小	【保護者】	84.9%	12.1%	3.0%
	【地域】	100%	0 %	0 %

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
岩成台中	【保護者】	87.2%	9.6%	3.2%

(2) 複数学級を望む声について

1 学年に複数学級が望ましいと考えている方はとても多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると思っています。

【小学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **96.8%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **66.1%**

【小学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている児童 **85.9%**

【中学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **99.4%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **64.5%**

【中学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている生徒 **98.9%**

(3) 学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、クラス替えができて友達がたくさんできることや、体育大会などの行事でクラスに活気があることが大事だと考えています。

地域の方は、多くの子どもたちによる人間関係の広がりや、子どもたちの登下校について重要と考えています。

【小学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「クラスがかわって、新しい友だちがたくさんできること」 46.6%
- ・「運動会などが楽しくて、クラスが元気なこと」 37.6%

【中学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 62.3%
- ・「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」 38.3%

【地域】

Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

- ・「多くの子どもたちがいて人間関係に広がりがあること」 59.7%
- ・「子どもたちの通学の距離や方法」 58.2%

(4) 魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育や、子どもの人間関係の広がりを重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

【小学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 58.4%
- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 58.1%

【中学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 61.2%
- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 53.9%

【地域】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

- ・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」 85.1%
- ・「緊急時の避難場所が行きやすい場所にあること」 31.3%

(5) 学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関することを心配と考えています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

【小学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **55.2%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **20.9%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **59.6%**
- ・「登下校にかかる時間」 **35.7%**

【中学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **45.4%**
- ・「環境変化による子どもへの影響」 **28.3%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校にかかる時間」 **45.4%**
- ・「登下校の安全性」 **44.1%**

3 適正規模及び適正配置に向けた考え方

「児童生徒数推計」と「アンケート結果」を踏まえるとともに、「地域の特性」もあわせ、岩成台中学校区の適正規模及び適正配置に向けた考え方を示します。

児童生徒数推計

- (1) 令和 22 年度では、中学校区内の全ての小中学校が、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」とであると推定されます。

アンケート結果

- (1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級が望ましいと考えられています。
- (2) 保護者は子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育や子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒はクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。
- (3) 学校の規模や配置を見直す場合、登下校に関することを多くの方が心配しています。

地域の特性

- (1) ニュータウン地区内で、岩成台中学校区は藤山台中学校区、高森台中学校区と接しており、岩成台中学校は、直線距離で、藤山台中学校から約 0.9 km、高森台中学校から約 2.3 km の距離に位置しています。



岩成台中学校区の小中学校が 適正な規模や配置となるように検討を進めます。

<検討にあたって>

- (1) 次のことから、隣接する中学校区とあわせた検討も視野に入れる必要があります。
 - ① 岩成台中学校については、「過小規模」となると推定されること。
 - ② 小学校については、各小学校の児童数推計から、児童数の減少が今後も続くと推計されること。
- (2) 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用などの通学手段についても検討する必要があります。